師範正 成清山耕 師範正 松山悦子 師範正 山口裕華

成 家

石 橋 芝 水

成 家 立谷青霞 成 家 増 田

愛

準三段 井 口 美代子 準師範 諸山彩雲 六 段 原田清雪

師 範 尾崎和葉 師 範 重松周華 師 範 身 深 俊 子

師範正 福 田 喜久恵

師範正 鳥飼真理 師範正 権藤陽子 松原華月

槌井末美

準8級 大 下 萌 衣

六 段 佐田理子 伊良子 真 紀

楢 橋 篤 子

師範正 田染健一

条幅随意優秀作品(7月末日締切分)



準四段 十 時 裕 子 準六段 川 野 藍 秀 五 段 **坂 田 真 澄**

準師範 鎌 田 敬 子 師 範 榎 園 美鴻

師 範 **梅谷節子**



師範正 佐田馨春



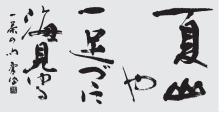
師範正 川久保 由香里



師範正 松 本 圭 仙



準三段 竹野純一



師 範 岩 谷 翠 岱



師 範 服 部 典 子

夏まつり

小4.四段 **辻 本 拓 真**

四年少石真理条り

小 4. 準四段 **小 石 真理奈**

がいたいに

小3.7級 岩 永 巧 晴

小りない石

小3.初段 **徳 丸 叶 菜**

ひまわり

小2.準8級 **岡 本 あ ん**



小2.準1級 渡 辺 斗 愛



小1.準7級 伊東 さくら

流れる雪

中 2 . 六段 **中 波 友紀子**

利の人様

中1.準特待生 石 井 凜

中別の光

中1.特待生 中 山 琴 音

星の祭典

小 6 . 準四段 甲 田 空 羽

星の終典

小 6 . 準六段 田 﨑 美 羽

山に登る

小 5 . 六段 吉 村 奏 風



小 5 . 四段 前 田 玲 奈



29

準8級

大下萌衣

準7級

松藤晴美

7

松本

恵

準6級

大山孝子

重 岡 三枝子

準3級

伊東義弘

中家奈苗

半 紙 随 意 優 作 ᇤ 秀 (7月末日締切分)















師範正 角大鳥居芙美

師範正 白 石 青 桃

師範正 楠森沙登

師範正 登 本 花 徑

安仲夕嬋

成 家 槌井末美













師 範 矢 野 涼 湖

師 範 尾﨑和葉

師 城 幸代

師 範 長尾益子

師 範 武田淳子

師範正 髙 瀬 紅 霞















五 段 和田青陽

準六段 森松敬子

六 段 樋口祥子

六 段 佐田理子

準師範 池田静玉

準師範 竹 清 成 翠

師 範 三原典子















準三段 柴田玉楊

三 段 白 濱 かずみ

段 志摩秀香

準四段 緒方具美

四 段 野田春晃

準五段 清原さよ

準五段 奥村直美















3 級 甲田華泉

27									
香	夏休み	紫の光	月下美人	櫻貝					
.,, ., .,									
ř	隼2	級							

井上玲香

準2級 谷口里華

2 級 櫻木尚代

準初段 田代千代

段 小 森 香 遠

準三段 あゆみ

神中元	はあずる	小暑	七夕月
愛子	土用	山百合	向日葵
夏休み	紫の光	月小美人	櫻貝





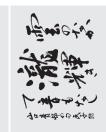
8 級 上 田 美代子



準7級 重松敏明

	神中元	はんずき	小暑	七夕月
坂田加	蟬しくれ	土用	山百合	向日葵
代子	夏休み	笹の光	月万美人	櫻貝

6 級 坂 田 加代子



準5級 佐藤民子



級 小嶋夕子



準3級 千 頭 利佳子



藍澤修二

平 本 健 太

西村志乃

準6級 御手洗 彩 香

森田美紀

山下有香

準三段

福谷朝美

鳥飼真理

師 範

西耒路 淳 子

準3級 宮 生 幸 枝

岡本あん

いとうあやめ

準7級 大 渕 萌 結

7 級 塚 原

凛

準6級 井 上

翼

みち下けいた

準8級 木村 りさこ



吉 井 ひなた

準5級 吉 次 麟太郎

吉富大翔

準4級 石 橋 心 菜

準3級 葉石花陽

準3級 熊埜御堂千穂

準二段 金子りほ

準二段 新納真子

準三段 畄 陸 斗

準8級 並木沙羅

8 級 加藤悠真 11.

準7級 田中奏多

7 級 佐田 ちひろ

準6級 森 原 悠

四

準6級 戸田結愛

佐 藤 しおん

新水

新水 みどり

準4級 平川唯花

準4級 山口紗英 4

大堀 みのり

納富梨央

金石 みのり

髙木陽依

準四段 里 綸 華

準五段 藤本彩花

五 段 西岡紗綾

六 段 吉 村 奏 風

8 級 中 川 陽菜乃

準3級 篠﨑真綾

3 級 北御門 ま い 麗 الحا

> 準2級 荒木麗心

2 級 松 本 美菜子

準1級 伊東百花

級 松永煌莉

初 段 田代 ゆうか



準四段 渉

準五段 池末朋生

準五段 柚 香

Ŧī. 谷 美 智

田中愛渚

準六段 竹原心花

準4級 西岡真愛

準特待生 山本侑楽

特待生 岡﨑琳音

安 藤 菜々子

宮里 花

準二段 原田口 結 菜

小 林 心

山田三咲

準特待生 坂 井 悠 子

準特待生 五反田 桜 花

特待生 矢 野 杏 佳

池田珠妃

準三段 安藤実央

準五段 長 花 音 野乃

準六段 吉 岡 野乃香

準三段 松村柑奈 準四段 末 永 紗和子

四 段 肥 塚 莉緒菜

準五段 安田早希

大村優生

準六段 田崎佳凛

武 下 鈴

11 \bigcirc の一の一と

> 準8級 清家悠太

なのはた なち X2

> 準8級 こがにな

久

なの なにぬれののの はたなち 1

級 吉 水 陽 和

ちば

ふり

をし

なの みなかののは

8 級 むらかみひな子 ひま ねりの

準7級 岩田陽葵

京 名

みぞ上

VΦ É ちばん

なの なはた 2 120 のの は

準6級 藤田さき 魚ちくいっぱんっしょ 6 級 やまたきあやせ

魚ちば

準7級 あらおここあ 和久桃子

海

準6級

吉 原 美 和

大さな

かりをし あや 6 級 姫 野 あやか

準5級 溝 上 雄 大

大き

大きな 級 竹原健登

健を

友 松 りか子

硬 筆 優 秀 作 品 (7月末日締切分)

		使 単 優	秀 作 占	古 (7月末日	締切分)	
坂を下りはじめました、大番に向かって、ゆるいとはべつの、海べにある	坂を下りはじめました。 交番に向かってゆるいな番に向かってゆるいけんのある	坂を下りはじめました。 交番に向かって、ゆるい とはべつの、海べにある	坂を下りはじめました。 交番に向かって、ゆるい 交番に向かって、ゆるい で、かって、ゆるい	*** (いっしょ に およ ないっとき ゆい まな に およ	がた田 なお である かた田 なお でんだ。 海て いっしょ に およ	無のがんだ。海の大きなたる大きなたるおよ
準2級 渡辺舞結	2 級 金 子 り ほ	1 級 田代 悠	準初段 熊埜御堂千穂	準8級 篠 崎 ゆ い	準8級 片田奈緒	8 級 秦 日々 人
坂を下りはじめました。交番に向かっていることはべつの海べにある	坂を下りはじめました。 交番に向かっているい 交番に向かっているい	坂を下りはじめました。 交番に向かってゆるい 交番に向かってゆるい	坂を下りはじめました。 交番に合かって、ゆるいなどはべつの、海べにある	坂を下りはじめました。 交番に向かってゆるい 交番に向かってゆるい	坂を下りはじめました。 で番に向かってゆるい とはべつの海べにある	なを下りはじめました。 交番に向かっているい 交番に向かっているい。
準 6 級 池之上 悠	6 級 山下結香	6 級 吉 井 ひ なた	準5級 岩 永 巧 晴	準 4 級 吉 田 莉々杏	4 級 野 中 明佳里	3 級 佐藤心南
お父さんの手には、「輪のお父さんの手には、「輪のお父さんの手には、「輪のお花、」	大事にするんだようした。ゆみ、一大事にするんだようしたがありましたがありました。	大事にするんだようした「ゆみ」つだけのお花れてようし	お父さんの手には一輪のおなさんの手には一輪の	お父さんの手には「輪のコスモスの花がありました」のだけのお花がありまし	大事にするんだようした。からの子には一輪のお父さんの子には一輪の	四年 ば坂本子佑真 大事にするんだようし。 大事にするんだようし。 大事にするんだようし。
準5級 田川充太	準3級 横 山 賢 信	2 級 嶋 村 美 友	準1級 土 井 京 佳	準初段 原 田 慧 衣	準初段 大坪健翔	準二段 坂 本 斗佑真
をまいたりして手をかけて 種をまいたりして手をかけて であれることだ日本は であれることが日本は とか大さい国なのである。 単型の中でもこの人工林の割 段	をまいたりして手をかけて すてている林のことだ。日本は 世界の中でも、この人工林の割 や置 合が大きい国なのである。 三 玉	人工林とは、人が木を植えたり をまいたりして、手をかけて をが大きい国なのである。 会が大きい国なのである。 とだ、日本は とが大きい国なのである。 とが大きい国なのである。	大事にするんだよう!」 後8	大事にするんだよう! た。ゆみ。うだけのお花 級をである。たけのお花 級	大事にするんだようし。 大事にするんだようし。 後れ かってだけのお花 級	大事にするんだよう! 大事にするんだよう! を呼み。つだけのお花 級
石井佑汰		大村椛帆	阪 祐人	楢 﨑 結 莉	野中湖花	緒方洸遥
をまいたりして手をかけて 有でている林のことだ。日本は 世界の中でも、この人工林の割 でが大きい国なのである。 ■ 二川島 菜奈	全が大きい国なのである。 会が大きい国なのである。 は界の中でもこの人工林の割 をまいたりして手をかけて は、人が木を植えたり、	一点が大きい国なのである。 一点が大きい国なのである。 一点が大きい国なのである。 一点が大きい国なのである。 「一点に、人工林の割りである。」 「一点に、人工林の割りである。」 「一点に、人工林の割りである。」 「一点に、人で、大きなけて、大きなけて、大きなける。」 「一点に、人で、大きなけて、大きなけて、大きなける。」	をすいたりして手をかけて 育てている林のことだ。日本は、 で大きい国なのである。 の大きい国なのである。	をまいたりして手をかけて 育てている林のことだ。日本は 育てている林のことだ。日本は 育なのである。	全が大きい国なのである。 合が大きい国なのである。 合が大きい国なのである。 一点では、 一点である。 一定である。 一定でも。 一定である。 一定です。 一定である。 一定である。 一定である。 一定である。 一定である。 一定である。 一定である。 一定である。 一定である。 一定である。 一定である。 一定である。 一定です。 一定で。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。	章ですいたりして手をかけて 育てている林のことだ日本は 育ででいる林のことだ日本は であれているがのである。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
準3級 川 島 菜 奈	準2級 中 原 琥太郎	2 級 木 須 穂奈美	1 級 堀 部 理 歩	準初段 世 良 果 恋	準二段 橋本海音	二 段 河 野 心
家庭よりもずっと多く使われています。資源やかん境を大切にするために、学校でみなさんができることはありませんか。	学校では電気や水食料などが、 家庭よりもずっと多く使われて するために、学校でみなさんが できることはありませんか。	家庭よりもずっと多く使われて するために、学校でみなさんが できることはありませんか。	できることはありませんか。 できることはありませんか。 できることはありませんか。 できることはありませんか。	人工林とは、人が木を植えたり ですている林のことだ。日本は でする大きい国なのである。 合が大きい国なのである。	人工林とは、人が木を植えたり 種をまいたりして、手をかけて でか大きい国なのである。	人工林とは、人が木を植えたり をまいたりして手をかけて 育てている林のごとだ、日本は でか大きい国なのである。
準四段 西 野望来	四 段 瀧 本 あかり	五 段 辻 美沙樹	準六段 前 田 結 菜	8 級 松 岡 深紅梨	準 6 級 藤 原 美 結	準4級 妹 川 杏 実

硬 筆 優 秀 作 品 (7月末日締切分)

			硬 筆 優	秀作品	7月末日	締切分)	
	家庭よりもず。と多く使われています。資源やかん境を大切にするために、学校でみなさんができることはありませんか。	マきろことはありませんか。 できろことはあります。できろことはありませんか。 するために、学校でみなさんかできることはありませんか。	学校では電気や水食料などが家庭よりもすど多く使われています資源やかん境を大切にするために学校でみなさんか	字校では電気や水食料などができることはありませんが。 できることはありませんができることはありませんが。	学校では電気や水食料などが、 するために、学校でみなさんが するために、学校でみなさんが できることはありませんか。	家庭よりもずっと多く使れれています。資源やかん境を大切にするために学校でみなさんができることはありませんか。	できることはありませんか。 できることはありませんか。 できることはありませんか。 できることはありませんか。 できることはありませんか。
	7 級 小 松 美 凜	6 級 植 松 悠 莉	準1級 原 口 永 遠	準初段 山 﨑 葉 月	二 段 向 井 嘉 音	準三段 松 村 果 林	三 段 今 村 優 心
	・ で者としての何よりの喜びである。 ・ 生息環境を維持するためにこ ・ た生息環境を維持するためにこ ・ た生息環境を維持するためにこ ・ とがてきるならそれは研 ・ である。	た生息環境を維持するために、た生息環境を維持するために、た生息環境を維持するために、立てることができるならそれ知識を役立てることができるならそれ知識を役がある。	で者としての何よりの喜びである。 完者としての何よりの喜びである。 で者としての何よりの喜びである。 で者としての何よりの喜びである。	た生息環境を維持するためにこうした研究から得られた知識を役立てることができるならった知識を役立ての何よりの喜びである。 で者としての何よりの喜びである。	動物たちにとってバランスの取れ 立てることができるなら、それは研 完者としての何よりの喜びである。 完者としての何よりの喜びである。	で着としての何よりの喜びである。 で者としての何よりの喜びである。 で者としての何よりの喜びである。 ・ 生息環境を維持するためにこ ・ とができるならそれは研 ・ とができるなられた知識を役 ・ とができるなられた知識を役	た生息環境を維持するためにこ うした研究から得られた知識を役 立てることができるならぞれは研 立てることができるならぞれは研 で者としての何よりの喜びである。
	準五段 宮 木 理 子	五 段 水 田 柔 良	準六段 宮 井 す ず	準六段 遠 藤 桜 子	六 段 藤 﨑 涼 菜	六 段 大 嶋 颯 太	準特待生 笠 舞彩
	で者としての何よりの喜びである で者としての何よりの喜びである。 で者としての何よりの喜びである。 で者としての何よりの喜びである。 で者としての何よりの喜びである。	た生息環境を維持するためにこうした研究から得られた知識を役立てることができるから得られた知識を役立てることができるからである。 ************************************	・生息環境を維持するためにこっした研究から得られた知識を後立てることができるならそれは研立することができるならぞれは研究を後しての何よりの喜びである。	た生息環境を維持するためにこうした研究から得られた知識を役 立てることができるなら、それは研立ないの何よりの喜びである。 を着としての何よりの喜びである。	かまにとってバランスの取れ 立てることができるならぞれは研立てることができるならぞれは研立である。 ・生息環境を維持するなめにこ ・した研究から得られた知識を役立てることができるならぞれは研	かたちにとってバランスの取れ た生息環境を維持するためにこ うした研究から得られた知識を役 立てることができるならぞれは研 で者としての何よりの喜びである。	た生息環境を維持するためにこうした研究から得られた知識を役って不ることができるならぞれは研立するるとである。 「『伊藤 梨乃
	準初段 菊池明璃	初 段 梅 木 遥 花	準二段 松 村 柑 奈	準三段 櫻 井 尊 仁	三 段 石 飛 春太郎	準四段 清川詩乃	四段 伊藤梨乃
	マスト あり しょうぎょう 梅雨 ハーロシュー かん こうぎょうちん (海内域ですれ) 向の時 こう まんしな かんな まましん かんな まましん かん ない オール に か 近の様で 日本の できる アンス・スート にっこう かん たいちょう かん こうけっしょう しゅう あん たいちょう かん こうけっしょう しゅう あん たいちょう かん アート にょうかん しゅう かん かん かけっしょう マート にょうかん しゅう アート にょう アート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	夏の夕暮れには、二つの恋星が天頂に 一点明な光を放ち始める。空を仰ぐ天 の川にかかる白鳥屋が関こえたことだろう。 こ星の舟の音が関こえたことだろう。	夏の夕暮れには二つの恋星が天頂に夏の夕暮れには二つの恋星が天頂にないの見のもとに急ぐひの川にかから白鳥座が羽を広げる。 ア葉の時代はびの星のもとに急ぐひ ことだろう。	夏の夕暮れには、二つの恋星が天頂に 夏の夕暮れには、二つの恋星が天頂に こ屋の舟の音が聞こえたことだろう。 こ屋の舟の音が聞こえたことだろう。	夏の夕暮れには、二つの恋星が天頂に東の夕暮れには、二つの恋星が天頂になりの月にかかる白鳥座が羽を広げる。の川にかかる白鳥座が羽を広げる。	東三面目とソーディーの協画入りから 二月ようやし協画がけずれ画の対して まりです。 一名でしたました。 マーガーディンとの親を上げてジャギュル。 四月の本が、日本が、こがでいた。 ではながりは対析しました。 を押かいて か立の様から足が、まずした。 ののはがりは対析しました。 を押かいて かった。 というでは、 こがかいて は、立の様から足が、 こがかいて は、立の様から足が、 こがかいて	夏の夕暮れには、二つの恋星が天頂に 一方葉の時代はびめ屋のもとに急ぐひ で葉の時代はびめ屋のもとに急ぐひ こ星の舟の音が関こえたことだろう。
	準六段 山口寛子	六 段 楠 森 沙 登	準師範 諸 山 球 子	師 範 権 藤 陽 子	師範正 樋 口 祥 子	師範正 楢橋 篤子	師範正 阪井浩子
	夏の夕暮れには二つの恋星が天頂に 東の舟の音が聞ったたことだろう。 こ里の舟の音が聞ったたことだろう。 こ里の舟の音が聞ったたことだろう。 □ □ 1 塚 隆る	夏の夕暮れには二つの恋星が天頂に東の舟の音が聞こえた。とだろう、正葉の舟の音が聞こえた。とだろう、正葉の舟の音が聞こえた。とだろう、正葉の舟の音が聞こえた。とだろう、正正の舟の音が聞これた。とだろう、	夏の夕暮れには、二つの恋星が天頂に 万葉の時代はひの星のもとに急ぐひ 万葉の時代はひの星のもとに急ぐひ でまった。とだろう。	夏の夕暮れには、二つの恋星が天頂に足の舟の音が聞こえたことがろう。 アルー・アル・アル・アル・アル・アル・アル・アル・アル・アル・アル・アル・アル・アル・	東上二番目と、) まきり 梅雨入りから 二日 よりやく梅雨湖かできた 雨町です 大きとを 河下 家 にんだる オクにもとって 東のにもがり はっている です いっかい のりの春の頃 カーングングの歌をですといる 上のにより りょかけている こうな あしん はっしょう いっぱ ましん あっぱ きょう アイン・ストール エール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	夏の夕暮れには、二つの恋星が天頂に 万葉の時代はびめ星のもとに急でひ 万葉の時代はびめ星のもとに急でひ こ星の舟の音が聞こえたことだろう。	東上二番目とう「早さすの経雨へから エーリーに一性、神の根ででない。 東上二番目とう「中では、大きなでは、 ましたが、まかれる」と、 東のはんが、は如何、一でから、全さん なって発音の、変はなくたが、を対すなか。 東のはんが、は如何、一一でから、全さん なって発音の、変はまた技術、とがなる。 なっている。 なっている。 ましたでは、 あっている。 ましたが、といかでは、 なっている。 ましたできる。 ましたでをもなできる。 ましたでをもなできる。 またでをもなできる。 またできる。 またでをもなできる。 またできる。 またできる。 またできる。 またでをもなできる。 またできる。 またできる。 またできる。 またでをもなできる。 またでをもなできる。 またでをもなできる。 またでをもなでをもなでをもなでをもなでをもなでをもなでをもなでをもなでをもなでをもな
	準二段 手 塚 澄 子	準三段 長 野 登志子	三 段 梶本直子	準四段 中村優月	四段松下真子	準五段 鈴 木 直 穂	五段宮崎茜霞
	夏の夕暮れには、一つの恋星が天頂に 夏の夕暮れには、一つの恋星が天頂に すいまから 日鳥をが羽をなげる。 の川にかかる日鳥をが羽をなげる。 アード かん こんことだろう こことの おっち はいい はい かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう はいかん しゅうしゅう しゅうしゅう はい かんしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう はい かんしゅう しゅうしゅう はい しゅう しゅう しゅう はい しゅう はい しゅう	夏の夕暮れには二つの恋星が天頂に 一夏の夕暮れには二つの恋星が天頂に 一点の時代はびめ屋のもとに急じてひ で星の舟の音が聞これたことだろう。	以上工書日と、一年とうの路面入りから 二八月ようでく路面州は下すれるの時にで まったがす。東ールでは、上では、上では、まったでのので、大手をでき、データでは、一下に、上でする人 年でからアンストラムでは、上には、 東のはありは和けっている。女子の は、東のはありは和けっている。女子の は、東のはありは和けっている。女子の は、東のはありは和けっている。女子の は、東のはありは和けっている。女子の は、東のはありは一点では、一点でいる。女子の は、東のは、からに、一ている。 「一方に、一ている」 「一方に、一ている」 「一方に、一ている」 「一方に、一ている」	マムニ番目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	夏の夕暮れには、二つの恋星が天頂に 一覧の夕暮れには、二つの恋星が天頂に 一つ間でいる 一つででかく 天 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	夏の夕暮れには二つの恋星が天頂に東のみの音が閉こえたことだろう。こ星の舟の音が閉こえたことだろう。	サメニを目とうするがあれられら、 メーモンディーを選手を増えている。 メーモンディーを選手を増えている。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
35	6 級 戸田啓子	準4級 福 谷 朝 美	3 級 久保博恵	準2級 宮 澤 美 成	準1級 清水健大	1 級 上 岡 麗 未	準初段 川 副 雅 子